

展示構成

※会期中、一部作品の展示替えを行います

第1章 始動:第3の洋画団体誕生

小杉放菴、梅原龍三郎、岸田劉生、三岸好太郎ほか

第2章 展開:それぞれの日本、それぞれの道

森田恒友、萬鐵五郎、大澤鉦一郎、宮脇晴ほか

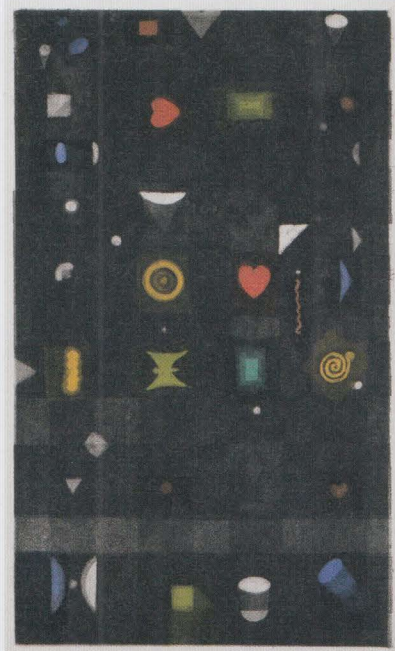
第3章 独創:不穏のなかで

木村荘八、島海青児、長谷川潔ほか

第4章 展望:巨星たちと新たなる流れ

岡鹿之助、中川一政、駒井哲郎、水谷清ほか

春陽会は、在野における洋画の公募団体として一九二二(大正一一)年に結成されました。創立メンバーには、再興日本美術院・洋画部を脱退した小杉放菴、森田恒友、山本鼎ら、草土社の岸田劉生、木村荘八、椿貞雄に加え、萬鐵五郎、梅原龍三郎らを中心とする新進気鋭の画家たちが名を連ねました。春陽会では、それぞれの個性を尊重する「各人主義」を謳い、油彩だけでなく、版画、素描、水墨画など、幅広いジャンルの作品が出品され、近代日本美術史に名を刻んだ著名な画家たちが多く参加しました。初期の春陽会は、日本の風土や伝統に根差し、フランスを中心とした同時代の近代西洋絵画の芸術性を取り込みながら、日本人にしか描けない「日本的な絵画、東洋的な絵画」を創出していきました。第二次世界大戦後は、フランスから帰国した岡鹿之助、中川一政が重鎮を担い、研究会を盛んに開催して次世代の育成にも力を注いでいきます。本展は、創立以来の姿勢である「各人主義」を手掛かりに、春陽会の歴史を刻んできた画家の「それぞれの闘い」、そして日本近代美術史における春陽会の意義を、創立から一九五〇年代頃までに活躍した画家の作品一〇〇点以上を通して辿ろうとするものです。



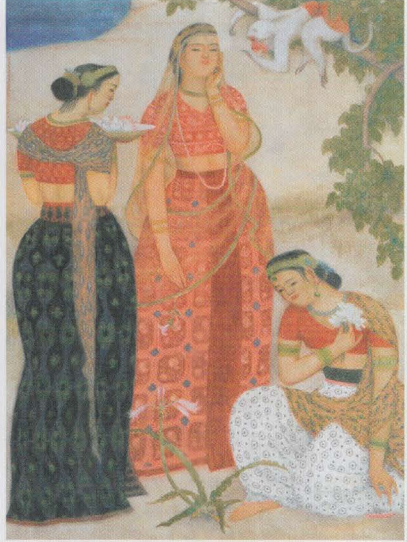
駒井哲郎《時間の玩具》1970年、世田谷美術館蔵(前期展示)
©Ari Komai 2024/JAA2400013



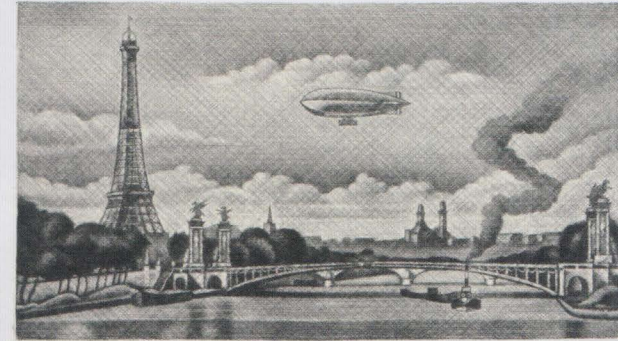
前田藤四郎《紅型》1939年、大阪中之島美術館蔵



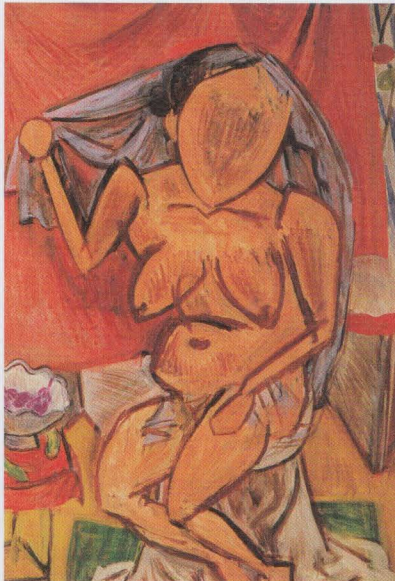
三岸好太郎《少年道化》1929年、東京国立近代美術館蔵



小杉放菴《羅摩物語》1928年、東京国立近代美術館蔵



長谷川潔《アレクサンドル三世橋とフランスの飛行船》1930年、碧南市藤井達吉現代美術館蔵



萬鐵五郎《羅布かづく人》1925年、岩手県立美術館蔵



木村荘八《私のラバさん》1934年、愛知県美術館蔵



岸田劉生《童女図(麗子立像)》1923年、神奈川県立近代美術館蔵

【関連イベント】①開催記念クロストーク「春陽会の発信力」5月25日[土] 14:00~15:30/会場:地下1階多目的室B/講師:入江観氏(洋画家・春陽会会員)、原田光氏(無言館手伝い・元岩手県立美術館館長)、土方明司氏(川崎市岡本太郎美術館館長)、木本文平(当館館長)/定員:60名/聴講無料(要申込) ②開催記念講演会「春陽会の草創と、その後の発展」6月8日[土] 14:00~15:30/会場:地下1階多目的室B/講師:田中正史氏(国立アートリサーチセンター主任研究員)/定員:60名/聴講無料(要申込) ③担当学芸員によるギャラリートーク 6月1日[土]、6月29日[土]、7月6日[土] いずれも14:00~(約30分)/予約不要・要観覧券(2階ロビーに集合してください) ※①②申込方法:4月9日[火] 10:00より受付開始、定員になり次第締切。電話にて、氏名・電話番号・参加人数をお伝えください。※その他のイベントの詳細は、QRコードをご確認ください。【次回企画展】「松本竣介「街」と昭和モダン—糖業協会と大川美術館のコレクションによる—」7月20日[土]~9月8日[日]

◎交通案内:【電車】名鉄本線「知立駅」もしくはJR「刈谷駅」乗換、名鉄三河線「碧南駅」下車、南西方向へ徒歩6分/【車】知多半島道路・阿久比ICから車で約20分(衣浦大橋を渡って右折) ※駐車台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください

